

學 會

第38回日本皮膚科學會岡山地方會(第5回總會)

日 時 昭和13年6月12日(日曜)午後正1時より

場 所 岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室
記念寫眞撮影, 懇親會

議 事 竝 に 演 題

驅黴療法に因る黴毒血清反應の消長
附. 黴毒患者の可療性竝に抗療性
に就ての早期判定

石 天 之 樞(岡大)

Originalとして岡山醫學會雜誌第50年第4號
に既に發表せり。

Fox-Fordy氏病の1例

湊 次 郎(岡大)

患者は22歳の婦人にして兩腋窩陰阜及び外陰
部に定型的の發疹あり。此「ムラージ」を供覽せ
り。

「ナトロアクトチワルサン」及び「ネオ
アクトチワルサン」の臨牀治験成績に
就て

黒 山 眞 吾(岡大)

余は日本曹達株式會社の製造にかかる所の「ナ
トロアクトチワルサン」及び「ネオアクトチワルサン」
の臨牀治験成績を統計的に觀察し且19例の臨牀
症例報告をなし、次の如き結果を得たり。

兩「アクトチワルサン」は純國産品にして其の價低
廉且良水溶性なり。而して各期黴毒治療に於て其

の效力著明にして、他の砒素劑に優るとも劣らず、
重大なる副作用なく安んじて患者に應用し得。又
兩「アクトチワルサン」の優劣を判定する事は困難な
り。

轉移性皮膚肉腫症の其の後の経過に
就て

黒 山 眞 吾(岡大)

余は本年2月12日岡山醫學會第49回の席上に
於て報告せる1例中皮膚肉腫症患者が再び皮膚肉
腫症を現はせる例を報告せり。本例は前回の發表
と一括し原著として岡山醫學會雜誌に發表す。

輸尿管末端囊様擴張症の3例

江 原 敏 夫(岡大)

余は本症患者の3例に就き、各々膀胱鏡圖譜を
提示し説明報告せり。而して2例は膀胱内に於て
小鉗を以て輸尿管末端を切開し、1例は電氣燒灼
を行ひ良結果を得たり。

皮膚科泌尿器科領域に於ける「ゲリ
ゾン」の應用

和 田 雅 之(岡大)

岡山醫學會雜誌第50年第8號に發表せり。

再び Pellagroides Erythem の 1 例

に就て

橋 英 基 (岡 大)

34 歳男, 昭和 12 年 8 月 20 日初診, 15 日前突然
右手背部の紅斑と兩下腿内面に於て内踝より膝窩
部に至る線様楊赤色紅斑に氣付いた。即ち Voight
の Linie に沿ふて紅斑を發現した興味ある Pella-
groides Erythem の 1 例であつて且組織的所見
をも述べた。本例に於ては未だ神経系統及び消化
器の障礙を伴はない極く初期にして Vit. B 劑の
投與により漸次輕快した。

膀胱内壁橋状形成の 1 例

伊 藤 誠 爾 (岡 大)

患者は血尿, 排尿終末痛, 尿頻數及び左側腎臟
部に於ける鈍痛を主訴として本年 3 月 9 日我が外
來を訪れたる 23 歳の職工にして「輸尿管カテー
リスミス」の結果左側腎臟結核兼膀胱結核と診断
せり。尙ほ結核の續發現象としてリュートー氏初
帶より膀胱頸部に互り中央部狭き橋状組織の存在
せるを認めたり。

先天性表皮水疱症の知見補遺

大 道 峰 雄 (岡 大)

余は前回に續きて患者に就て身體各部に於ける
毛細管の抵抗に就て檢せるを以てここに報告せん
とす, 詳細は尙ほ原著に譲る可し。

皮膚電解質に就て

西 川 規 夫 (岡 大)

近く原著として發表すべし。

「アスピリノ疹」の 2 例

前 田 哲 夫 (玉)
武 市 重 雄

定型的の本症 2 例を Moulage につき供覽せり。

新水溶性蒼鉛劑「チオビス」の治驗

山 本 春 海 (岡 山)

各期梅毒患者 30 餘例に對し, 新水溶性蒼鉛劑
「チオビス」を「サルグルサン」と併用使用し, 吸収
の速かなる點, 注射局所の疼痛無き點, 副作用の
比較的少なき點等の特徴を有する事を述べた。

陰莖下裂の整型手術に就て

山 本 春 海 (岡 山)

13 歳の少年に見たる陰莖下裂症に對し Hacker
氏法に従て整型手術を行つた症例に就て述べ, 併
せて尿道下裂の整型手術に關する注意事項に就て
述べた。

魚鱗癬様癩の 1 例

稻 葉 俊 雄 (光明園)

演者は癩の皮膚症狀の 1 として魚鱗癬様癩の 1
例を報告した。癩は蛇皮様魚鱗癬の形で患者の 30
歳頃右膝部の癩性斑紋に繼發し, 爾來斑紋と共に
全身に蔓延し同部の知覺鈍麻乃至脱失著明であ
る。其他の癩症狀としては眉毛睫毛の鬆疎, 大
耳神經, 尺骨神經等の肥厚, 胸腹部の癩性斑紋等
が認められる。

癩部の組織學的檢査を行ふと, 眞皮に所々散在
性の細胞浸潤を認め, 癩菌を多數に證明される。
泡沫細胞も亦少數乍ら認められた。演者は本例は
結節癩輕症に屬するものと考へ, この魚鱗癬は癩
性斑紋に繼發し, 皮膚の癩性浸潤を來したる結節
癩の皮膚變化の 1 異型となし, Fordyce und Wise
氏等に倣つて魚鱗癬様癩 (Lepra ichthyosiformis)
と呼んだ。

愛生園に於ける丹毒の統計的觀察

難 波 政 士 (愛生園)

癩の合併症としての化膿菌性疾患は相當に重要

なる役割を演ずるものにして癩患者を取扱ふに當りて等閑し得ざるものなり、此中丹毒の割合に多きことは注目に値するものである、丹毒の療養所に於ける流行的發生も屢々見らるる所であり我愛生園に於ても昭和6年9月に收容人員400名に對し35名の發病を見たり、茲に昭和9年以後の丹毒癩患例371例を得、これに就き稍々統計的の觀察をして見たので報告する次第である。

病型との關係を見るに、結節癩345例に對し神經、斑紋癩26例である、これを更に各々の毎年末在園者總數に對する百分率より見るに

	結 節 癩	神 經 斑 紋
昭和9年度	86(782)—11%	8(226)—3.5%
昭和10年度	83(874)—9.5%	6(269)—2.24%
昭和11年度	60(920)—6.5%	5(292)—1.7%
昭和13年度	85(1037)—8.57%	6(301)—2.0%
#13年現在	31	1

之より見る時は神經斑紋癩の罹患率は明かに結節癩のそれに比し少きことが知れる。次に男女の罹患状態を見るに

	男 性	女 性
昭和9年末	74(758)—9.7%	20(250)—8.8%
昭和10年末	70(842)—7.3%	19(301)—6.31%
昭和11年末	42(888)—4.7%	23(324)—7.1%
昭和12年末	78(977)—8.0%	13(361)—3.6%
#13年現在	27(1034)—2.6%	5(390)—1.3%

上表の如く男性稍々多きが如きも昭和11年には女性の方比較的に多く、更にこれを9年以前の統計より見るも性別にはあまり關係なきが如し。年齢に對する詳細なる統計は未だこれを得ざるも概して壯年者に多きが如し。

次に收容日より丹毒感染迄の期間を1年以内のものに就き見るに

(各年末に於ての統計)

	1—10	11—20	21—末	2箇月	3箇月	4箇月	5箇月	6箇月	7—12箇月
昭和9年	1	0	3	4	4	0	5	10	19
昭和10年	1	3	2	5	1	2	3	2	6
昭和11年	2	1	0	4	0	1	0	0	11
昭和12年	4	6	4	8	2	0	3	5	8
昭和13年	2	9	0	0	1	1	0	0	5
計	10	19	9	21	8	4	11	17	49

即ち收容されてより1箇月間に發病するもの非常に多し。更に1箇年内に發病するものを通算すれば各年別に於て其の年の罹患例の相當の部分占むるものである。此中、自宅より直接收容せる患者大部分を占む、先に田尻醫官の報告せらるる如くなり、之は自宅單獨生活より療養所への急激なる生活状態の變化即ち共同生活による連鎖感染が大なる原因をなしてゐるものと思はれる。

次に發生部位に對する統計を見るに下の如し。

	顔	下肢	上肢	全身
昭和9年	90	4	2	1
昭和10年	81	0	3	0
昭和11年	60	4	1	0
昭和12年	85	4	2	0
昭和13年	29	1	1	1
計	346	13	9	2

上表の如く顔面より発生せるもの 345 例, 下肢 13 例, 上肢 9 例, 全身即ち軀幹にも及びたるもの 2 例, 顔面の殊に多きは結節癩患者にありては殊に上皮損傷の多きと更に眼瞼部より発生すること割合に多き點より見れば癩患者に多き重眼症が相當の役割を務むるものならん。

季節的には如何なる發生状態にあるか。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和9年末	10	13	10	10	7	4	0	1	6	6	10	16
昭和10年末	10	13	15	9	9	4	5	4	4	8	6	5
昭和11年末	4	2	6	12	5	8	2	3	3	10	7	3
昭和12年末	3	6	7	9	9	10	7	4	2	10	9	15
計	27	34	38	40	30	26	14	12	15	34	32	39

上表に示す如く寒冷期より春期にかけ多數發生するものである。即ちこれより見るに丹毒發生は寒冷期春期に外氣に觸るる部位に起る潰瘍の惡化増加に關係あるものか又一見潰瘍なきにも來るより見れば癩患者の如き網狀織内被細胞系統侵されてある個體の低位抵抗に季節が影響すること大なるかと考へられる。

症状としては型の如く惡寒戰慄を以て急激なる體温上昇あり同時に完型的の紅斑を以て來り灼熱感壓痛を有す過半数に於て小水疱性丹毒あり少數ながら蜂窩織炎性丹毒も見た又 2 例に於て遊走性丹毒を見た。

所屬淋巴腺は殆ど全例に於て腫脹壓痛ありたり殊に顔面丹毒にありては下顎隅の淋巴腺の疼痛を訴ふるもの多し。

熱は弛張性稽留性又は間歇性に 7—10 日の経過を以て分利す, 時に再發あり, 又再感染も屢々見られる所にして初感染に比し大概軽く経過するが如きも中にはより強く重篤に経過するもある, 再感染を統計的に見るに 18 回 1 名, 5 回 1 名, 4 回

8 名, 3 回 10 名, 2 回 32 名なり。

合併症として急性腎炎を發したるもの少數あり蛋白尿は相當の數に於て見られるが如し。結節癩患者に特有の合併症としては結節性紅斑相當に見らる。この爲に發熱期間長引き數旬に亙りて弛張性, 間歇性に留まることある。

對症鑑別としては結節性紅斑が問題となる即ち時に丹毒と非常に酷似せる局所症状を呈し一見診斷に苦しむが如きも此際所屬淋巴腺の腫脹壓痛を伴ふにより決して誤診することなし, 且大多數に於て丹毒紅斑周邊部より溶血性連鎖狀球菌を培養し得るにより仔細に觀察すれば鑑別自ら明かなり。

局所の後遺症としては脱毛往々見られ又興味あるは局所の癩性皮膚變化に多少の一時的影響あるものの如き様屢々見られたり。

癩に發生せる帶狀疱疹に就て

守屋 睦 夫 (大 島)

抄録未済。

追 加 光 田 健 輔

カボシーの教科書に「ベルベス」と椎間神経節内出血と關係ありとのことを讀み類の「ベルベス」を經過したる屍の椎間神経節を檢査したることあれども類の椎間神経節細胞は癩菌を有すること多けれども其の「ベルベス」に一致するところに限局せず, 上部より下部に至るまで一様にして又左右に偏在せず。これによりて自分は椎間神経節癩病變と何等の關係なきものにして恐くは末梢神經の病變に關するものならんか。

追 加 田 尻 敢

癩患者に帶狀疱疹を併發すること屢々にして必ずしも神經斑紋型に限らず長島變生癩に於ても結節型に數例のこれが併發を経験せり。

癩患者に來る急性虹彩毛様體炎と癩性結節性紅斑との關係に就て

内 田 守 (愛生園)

細菌の侵襲による第1次性浸潤の場合は、充血疼痛等の急性炎を伴ふものに非ず、然るに結節癩患者に來る虹彩毛様體炎は時に急性發作を起し角膜周攢充血及び毛様神經痛の爲に患者の苦痛甚しく、成形性滲出物の爲に、早期に虹彩障翳を起し著しく視力を低下するものなれども、この急性發作が如何なる機轉に依つて惹起せらるるやに就て説明を加へたるは東西の文獻に之を見ず。然るに癩患者の身體各部の皮膚に於て、大風子油の治療其の他諸種の刺激によりて、癩病瘡の破墜せらるる爲に惹起せらるる癩性結節性紅斑は、皮膚に急性炎性の結節性紅斑を生じ、患者は熱發、關節痛及び食欲不振等に悩む。この癩菌の第2次性變化は眼の急性虹彩毛様體炎と極めて類似せり。又治療的にも自家血清が兩者に割合に效果あり。余は長島愛生園に於てこの全身の結節性紅斑を詳細に觀察する機會を與へられたるを以て、本症と急性虹彩毛様體炎との相互關係に就て昨年6月より本年5月に至る迄の57例の急性虹彩毛様體炎患者に就て結節性紅斑との關係を檢せり。

即ち急性虹彩毛様體炎の場合、顔面其他全身に結節性紅斑を合併する者は實に30例(52.6%)に達し、現在は紅斑無けれども既往に有りたるもの10例(17.5%)又後れて發生せる者2例(3.5%)にして、之を合計すれば實に42例(73.7%)の高率に達し、未だ紅斑を生ぜざるは僅に14例(26.3%)に過ぎず。尙ほこの兩者は良く反覆再發するものにして、既往症に依り何れが先に初發せしやを檢せるに、結節性紅斑が先發せるもの55.1%、同時に初發せるもの6.1%、虹彩毛様體炎が先發せるものは僅に8.1%なりき。

以上の如く癩性急性虹彩毛様體炎は癩性結節性

紅斑を先發し、又同時に合併し來るもの極めて多し。故に急性虹彩毛様體炎の治療に際しては單に眼科的にのみ處置せず、全身的關係を考慮する必要があるべし。尙ほ兩症間の組織學的及び血液像等の比較研究は他日報告する事あるべし。

齒牙の癩性變化

田 尻 敢 (愛生園)

(1) 余は17例、25齒を檢索したる結果を報告せんとす。

(2) 齒牙の癩性變化は齒髓、象牙質、白堊質、齒根膜、齒槽に夫々現はる。而して齒髓、齒根膜、齒槽に著明にして象牙質、白堊質に於ては輕度に現はる。

(3) 上顎門齒、下顎門齒、上顎犬齒、下顎犬齒の順に變性變化強く、其の他の齒牙には變化極めて輕微である。

(4) 齒髓に於て著明なる癩性變化があつても硬組織に缺損等を來さしめることなし。

(5) 齒牙の癩性變化は結節型のみに限られ、神經型には變化を認むること能はず。

癩患者の紅變齒の病理解剖の1例

田 尻 敢 (愛生園)

癩患者に屢々變色齒が認められ、結節型の患者の上顎の門齒に殊に多く現はれ、原因として外傷等と關係なきもの多く、齶齒其他による牙質の實質缺損とも關係なく、且永年に亙りて變色を保ち、齒列正常、骨髓堅固にして通常の紅變齒と相違する處あり。其の組織所見に於て齒髓の壞疽と其の充血を認めて之が原因なりとせり。

巨大なる膀胱結石の1例

中 西 正 男 (岡山)

52歳の男子より高位切開に依り摘出せる重量200gの結石を供覽せり。

追 加 根 岸 博

同患者は6年前に余も一度診察せる事あり。當時の所見は膀胱鏡的に3角部及び頸部に軽度の潮紅浮腫を呈せるのみにて結石を認めざりしを以て此巨大なる結石は其の後に發生せしものと考へらる。

追 加 大 森 大 亮

65歳の男子43年前膀胱結石の診断を受け手術を恐れて放置せしものが遂に其の痛に堪へずして手術を求めたる1例を座談的に追加す。結石は握飯大のもの2箇膀胱腔内に充満し居り僅に途を求めて尿道に出でたる状態にて膀胱壁は全壁に浸潤ありて脆く、粘膜面は汚穢暗褐色の肉芽が結石の粗雑面に粘着せざる如き状態を呈せり。結石の重量大きさを明確に記憶せざるを遺憾とす。

追 加 小 池 藤 太 郎

尿路結石は摘出時と乾燥時とは重量を異にする事は周知の事實なり。我教室の最も大なる膀胱結石は、嘗て中川前教授の報告せられしものにして(大正元年)當時340gありしも現在にては270gに減少せり。

癩患者に發生せる内科的疾患

神 宮 良 一 (光明園)

癩患者に來る内科的疾患中結核性疾患最も多く腎炎之に亞ぎ死因の大部分をなすものなり。茲に報告せんとするは稀に見る2-3の疾患に就て述べんとす。

1) 再生不能性貧血症 24歳, 男, 斑紋癩

本年2月中旬全身倦怠及び齒齦出血を主訴として來る。血液検査の結果高度の貧血と顆粒性細胞の減少及び淋巴球の増多並に血小板數の減少と赤

血球の幼若型が流血中になきこと。解剖によれば各臓器に出血點のあること骨髓の黃色變化等によつて之を定む。

2) 巨大胃 34歳, 女, 結節癩中等度

胃の大きさ大彎の長さ84cm小彎の長さ30cm最大周囲40cm十二指腸も亦擴張して其の周囲27cmなり。胃の容量3500cm内容は2600cmなり。下端は耻骨縫際上約2横指に至る。

3) 急性黃色肝臟萎縮 28歳, 結節癩

初診の時左季肋部の壓痛及び少しく觸る其の後約10日にして肝は左乳線に於て3横指徑軟く觸る。然るに其の後肝は小となり觸れざるに至る解剖によれば肝臟の大きさ小となり、其の重量は尙ほ著しく軽く檢鏡により黃色肝臟萎縮なること明かなり。

以上3例とも癩なるが故に發生せるには非ざるも偶に癩患者にかかる稀なる疾患を見たるによりて發表す。

攝護腺肥大症に作へる多發性膀胱結石(26,500有餘箇)

小 池 藤 太 郎 (岡 大)
和 田 雅 之

原著として發表の筈。

Raynaud氏病の1例

小 池 藤 太 郎 (岡 大)

45歳の女子の兩手指に發生せる本症の一定型例に就て述べたり。發病は14-5年前にして手指の末端は程度の差こそあれ何れも乾性壞死に陥り、爪は著しく變形黑變せるか、或は既に脱落し居れり。但し橈骨並に尺骨動脈の搏動に著變なく、局所は著しく冷感を呈し、且時に疼痛を訴ふるも知覺麻痺を見ず、W. R. (-)。

仔豚辜丸に癩菌接種による類結核形 成供覽

光 田 健 輔 (養生園)

昨年秋癩結節を乳劑を作り、生後1箇月を經過したる仔豚の辜丸に接種して結核菌の接種と異なる結核様組織像を發生せしめた、春産の仔豚に再び辜丸接種を追試した、前と同様の成績を擧げ得たるか故に供覽するものである。仔豚の辜丸内に癩菌を接種する時は結核菌が動物體内に接種せられたと同じき組織像即類結核症を發す。之は癩菌に對する大なる抵抗力を發生し居る神經癩及び斑紋癩若くは健康人の皮膚に癩菌を注射して起る類結核と同一なり蓋し彼的那威のベック氏により發見せられたる粟粒性「ルポイド」、「ザルコイド」と唱ふる皮膚疾患是那威の當時の状況より押すに癩菌による「ルポイド」即ち今日問題となりたる癩性類結核症、我が國の斑紋癩に非らざるやとの疑問に一の暗示を與ふる事例なり。

結節癩淋巴腺に就て

光 田 健 輔 (養生園)

1) 結節癩の淋巴腺は皮膚粘膜の結節浸潤に一致して腫大す、例之顔面口腔の結節及び浸潤には耳前、顎下頸部の諸腺腫大し、手及び上肢の場合は肘腺窩窩膜、足及び下肢の場合は膝膕及び深淺鼠蹊腺侵さるる事尙は急性化膿及び結核等の如く頰城腺を侵すが如し、従つて結節浸潤の強盛なる場合は淋巴腺腫大も強盛にして癩菌も新鮮多數なり。

2) 皮膚粘膜の癩性變化吸收せられて殆ど肉眼に徴知す可からざる場合と雖も、淋巴腺には固有の癩病變を久しく殘存す。

3) 病變とは淋巴濾胞芽中心の網狀織細胞に癩菌を貪食し、網狀細胞は増殖し、濾胞の大部分を占領し淋巴濾胞に於ける淋巴球は濾胞の周圍部に

少許殼狀に殘存す。

肉眼的に之を見るときは第2次淋巴結節部は帶黃灰白色となりて、被膜の癩菌による肥厚、被膜下淋巴囊皮質竝に髓質の淋巴囊は其の内皮及び網狀細胞内に赤血球ヘモジリン等を含有して稍々暗褐色を帯び帶黃灰白色の濾胞内癩結節と相交錯して所謂肉豆蔻狀の斑をなし、其の淋巴囊内皮内には癩菌は甚だ渺なけれども濾胞内の癩細胞には始め癩菌は増殖し、遂に小球を作り遂に空泡變化に陥る、其の變化の陳舊なればなる程帶黃灰白色の色調を呈するに至る。

4) 淋巴腺末梢に於ける程以上の變化は強くして之が爲めに鼠蹊腺の如きは卵黃大に達することあり。

5) 淺深鼠蹊腺の變化は最も著明なれどもポーバルト氏韌帶を超えて腸骨窩に入ればローゼンミユルレル氏腺外腸骨腺腹部大動脈腺に上行するに従つて第2次淋巴結節及び濾胞索に於ける癩結節は極めて小となり肉眼的に塵點狀となり、淋巴囊は潰かり、囊内の内皮及び網狀細胞は赤血球を封入し、末梢の淋巴腺と外觀頗る異なり、而して濾胞内に發生したる癩細胞群は癩菌を有すること遙に減少し、空泡細胞内に僅に數箇を算するに至る即ち上行するに従つて菌數は下部に於て濾過せられたるが如き觀あり。

6) 上腸間腺に於て重症結節癩の場合に濾胞髓索の癩細胞群は肉眼的に辛うじて見得るが如き小群にして大なる單核の組織球に赤血球及び漸く1箇の癩菌を見るものあり、勿論上部空腸部を領域とする粘膜筋上下に極めて少數の癩細胞内に少數の癩菌を見るに一致す。

7) 肝門淋巴腺が著大なる癩變化を有することは癩の病理解剖の始まれる時より周知の事實なり之に連續する内臟動脈軸の諸淋巴腺即ち肝腺脾腺脾門腺は肝門腺の如く著大ならざれども内臟類

腫たる脾臓肝臓の病變を領域とするが爲めに起る肉眼可視的變化にして肝門腺の如きは鼠蹊腺に次ぎ類菌及び類病變顯著なり。

8) 肘腋窩腺の關係は膝窩腺と淺深鼠蹊腺の關係に等し、膝窩と肘部、スカルパ3角と腋窩の如き皮膚に類顯著變なき部位に被はれ動靜脈に接近し、第2次淋巴結節の著明なる帶黃灰白色の變化を示すこと相酷似す、只だ腋窩より鎖骨動脈淋巴腺に於てローゼンミュルレル以上の腸骨動脈腺大動脈腺に比すべき淋巴腺なき爲めに小結節を見ざるのみ。

9) 顎下腺より頸動靜脈に沿ふて下向する淋巴腺も顎下腺に於て第2次結節の帶黃灰白色腫大被腺の肥厚高度なる肘腋窩腺の變化に劣らざるものあり頸部を下向するに従ひ次第に小結節に移行、鎖骨下動脈の部の淋巴腺には塵點狀結節となり、同時に炭色素を含有す。

10) 氣管支淋巴腺も不思議にも「ズタンIII」によりて染色せざるにも拘はらず、炭色素と共に同時類菌を有する炭細胞を有す。

11) 世人淋巴腺を以て類菌の安宅潜伏の好適所と考ふるものあり鼠蹊淋巴腺の如き類菌の多數に存在する場所と雖も皮膚の新結節に比較すれば大概顆粒狀陳腐の類菌を有するもの多く中心に近づくに従ひ類菌は減少し淋巴腺の網状内皮組織及び組織球は却て類菌を殲滅せんとする防禦機關たることを認識す。

1—2 患者示説

根 岸 博 (岡 大)

46歳男子の囊腫腎、49歳家婦の纖維素尿及び19歳未婚女に於ける急性腸加答兒に續發せし限局性急性膀胱炎の各1例を示説せり。

2—3 泌尿器科器械供覽

根 岸 博 (岡 大)

新式膀胱鏡 其他 2—3 泌尿器科手術器械を供覽せり。

閉 會